

## 農繁期に於ける労働と食生活

山崎 政治

佐賀県農業試験場

YAMASAKI, M. Rural Life of Labour and Diet during  
the Busy Farming Period

## 1. はし が き

農業経営の目的は簡単に云つて農家所得をより多くする事であるが、その窮極は農家生活を充実することにある。また労働再生産の場である生活環境を豊にすることは経営の合理化を推進する源泉とも云える。

所が農村は家族労働経営で而も規模が小さいと云つたような日本農業の特質や、封建的な思想や機構に縛られている関係から自家労力を無制限に供給することによつて所得を増し、家計費の節約によつて経済余剰を見出さんとしている状態で苛酷な労働に対して充分なる栄養も休養もとれない程経済的にも恵まれないと云われている。

佐賀平坦地は所謂佐賀段階として土地の生産力が高く経済的にも恵まれた地帯であるが、昨秋にこの地帯から1部落を選んで農繁期の労働と食生活の実態を調査したがその結果の概要を簡単に報告する。

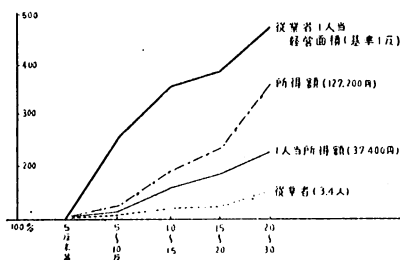
## 2. 調査方法と農家の概況

この調査は佐賀平坦の性格を代表すると思われるN村のN部落を選んで調査した。調査期間は稲刈り開始より20日間とし労働日誌と食物摂取状況を農家に記帳させた。

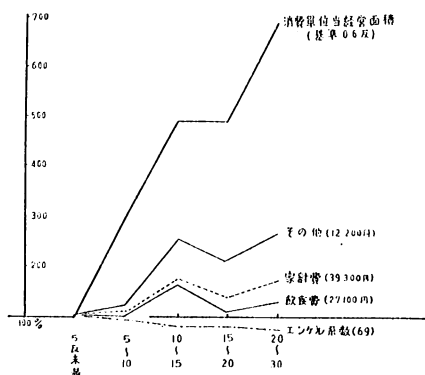
この部落は佐賀市に近い米麦二毛作地帯で1戸平均経営面積は1町3反で佐賀平坦地の平均より3反位大きい。農家は経済的にも裕福で所有資産も多い。農機具に1例をとつてみても、23戸で耕耘機を5台、電動機、動脱を各13台、石碄を9台も所有しており、乳牛も8頭飼育されている。また経営改善や生活改善についての関心が強く台所改善も進み着々とその成果をあげつゝある。

農家の申告による課税所得額をみると第1表で判るように小農階層で大体14,5万円から30万円、

第1表 階層別農家所得



第2表 階層別家計費 (消費単位当)



大農で50万円位になつてはいるが実際はもつと多い管である。次に消費単位当りの家計費をみると第2表のように小農が4万円位、中農と大農は5~6万円位で相当に生活程度が高いようである。

## 3. 労働の実態

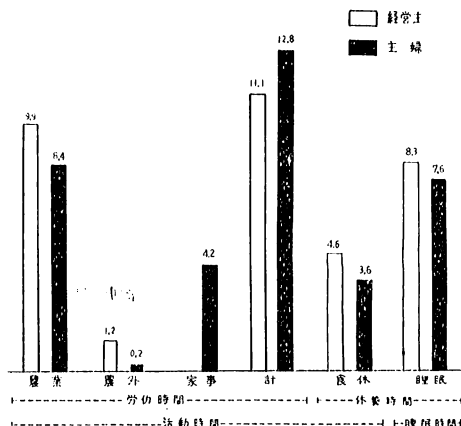
このように地帯に比べて相当進んだ経営をしている佐賀平坦でも農家の年間労働をみると繁閑の差が甚しい。大体は労力過剰の現状であるが、それでも農繁期には不足する。即ち農繁期が不要なるべき過剰人口を必要ならしめている。この事が農業機械化ひいて

は経営の合理化をはたむ一因をなしているが、秋の農繁期は稲刈、脱穀、馬糞、その他の重労働がつゞぎ、老人や子供迄一家をあけて働いている。特に青壮年は質的に重労働を続けている。詳細な説明は省くが各農家の労働の概要を述べると先づ

- (1) 農業労働は男子が主婦よりも多く働いているが農外、家事を含めれば主婦が相当多く働いている。
- (2) 同じ主婦でも子供や老母が家事に手伝う農家は農作業に経営主と変わらない位働いている。
- (3) 家事労働時間は総労働時間の15~20%である。
- (4) 炊事所要時間は平均3時間位で家事労働の3分の1位となつている。
- (5) 農業労働時間は大階層は1人1日平均10時間位で、階層の小さくなるにつれて少なくなつており5反未満では5~6時間である。但し総労働時間にはその傾向はみられない。

(6) 雇傭力は殆どなく、共同作業をやつた農家も2丁だけである。  
要するにこの頃は日の出が遅く日没が早いので朝は

第3表 活動時間の比較 (経営主と主婦)



	農 業		農 外		家 事		計		食事, 休息		睡 眠	
	経営主	主婦	経営主	主婦	経営主	主婦	経営主	主婦	経営主	主婦	経営主	主婦
標準偏差	2.17	1.84	1.53	0.27	1.17	1.31	1.28	0.83	1.10	0.42	0.45	
変化系数	21.92	21.90	127.50	135.00	28.86	11.800	10.00	18.04	30.56	5.66	5.92	

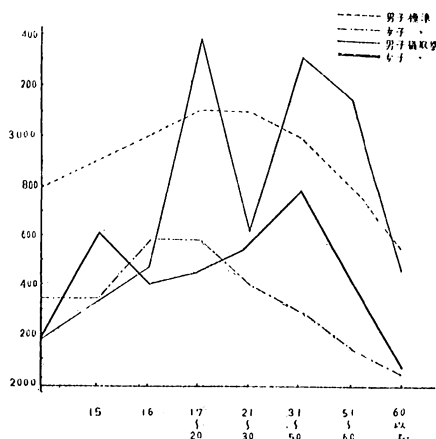
まだ暗い中に起きて働き、夜も暗くなる迄働いており、作業時間が長いので精神的には苦勞しないにしても、昔と変らぬ手労働の稲刈は大変な重労働である。

所で一番問題である婦人の労働はどうなつていようか。第3表は各農家の経営主と主婦の活動時間を比較したものである。1日平均の活動時間は殆どの農家が主婦の方が多くなつている。睡眠時間はそれ程差はない。朝の起床は主婦が平均半時間位早い。夜の就寝は殆ど変らない。結局は食事、休息の時間を少くして家事に廻していると云えよう。

4. 食生活の実態

これ程の重労働に対して非常に悪い食事内容であろうと考えていたが意外に栄養摂取が良い。勿論農家によつて或は個人によつてまちまちで色々な問題があるが、詳しい説明は省き、年令別、性別の栄養摂取について述べてみたい。第4表はカロリーの比較であるが、男子は一般に女子よりも標準に対する摂取量が少

第4表 年令別、性別、カロリー攝取状況 (1日平均)

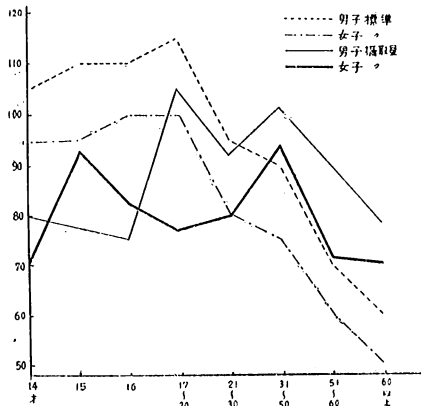


くなつており、年令別にみると發育期の層が非常に悪く、老年層標準を上廻つている。次に女子についてみ

ると發育期 16, 17才を除いて他は全部標準以上に摂取されている。但し此処で断つて置かねばならぬことは年令別の人員が1人か2人の層では平均値そのものに問題があるが一応の傾向を知る為に敢えて平均を出てしてみた。次に蛋白質についてみると男女は何れも20才位迄は非常に不足し成年期以後は逆に多すぎている。動物蛋白は一番必要とする發育期の層にはいくらか不足している。食生活については主食、副食の成、献立組合せ、調理の方法、燃料、経費等の調査も纏めているが、主な事項を述べると

- (1) 一般に農家は主食偏重と云われているがその傾向は少い。
- (2) 脂肪と蛋白質が不足しがちであるが蛋白は老人に多過ぎ青少年は不足している。脂肪は必要量の半分位しかとられていない。
- (3) 流石に自給率は高い。鶏卵は全農家が自給しているが、牛乳は殆ど利用されていない。
- (4) 献立の内容をみてみると非常に単純で主食にう

第5表 年令別、性別蛋白攝取状況(1日平均)



どんが多く利用されているのが特徴である。これは主として時間の節約の為であろう。但し副食には相当栄養価のあるものがとられている。

第6表 1日平均主食攝取量

	米	麦	うどん	そめん	麦粉	パン	計
1日平均量	合 3.68	合 0.14	匁 243	匁 11.6	匁 4.81	匁 1.0	
1人平均価格	川 27.60	0.62	3.42	16.2	0.96	0.25	34.47
利用農家数	戸 23	0.60	22	2	17	5	

この様な事が云えるが栄養摂取量の多い事は何と云つても量に依存しており、食品の「栄養価」と云う質迄は考えていないようである。本当は年令や性別によつて食品の内容も相当変えるべきである。

然し実際はそこ迄考えていても材料が手に入らなかつたり、時間的に余裕のない事等の為に簡単には行かないだろう。然し乍ら兎に角我々が今迄予測していたように忙しい時は漬物でお茶漬と云つたような粗末な食事はみられない。栄養摂取の良い事や家計費の高い事は食改善、台所改善の重要性を啓蒙されて意識的に農閑期よりも旨いものを食べようとし働く為には少し位金がかゝつても栄養を摂らねばだめだと云つたような考えが生れて来た結果と思う。この事が実は無意識の中に農業経営に非常に好結果を与えている。一般に農家の生活はみじめであると云われているが佐賀平担ではこのように生活程度が高い。経営面積の大きい事が佐賀平担の優位性を築いていると云えるがこのように立地条件の揃つた所でも零細農は依然としてみじめである。又立地条件の劣つている他の地帯は比較にならない事を断つて置きたい。